

授業科目名	生活の理解(2100116)		
時間割名	生活の理解(22106)		
時間割担当	松田智子		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	火・2		

授業の目標・概要

子どもの身近な社会環境である学校、家庭、地域社会における具体的な活動や体験を通して、子どもの社会認識の発達について、空間認識、社会的スキル、コミュニケーション・スキルなど多様な観点から考察する。小学校入門期である低学年では、自分のまわりの人々や組織などの社会や、季節の移り変わりといった自然環境の変化などに気づき、気づいたことを表現する力を身に付ける時期であると同時に、仲間と協同して活動に取り組み、学校での自己実現をはかる経験を十分に味わわせることが求められる。生活にかかわる様々な実践活動から子どもの生活世界・内的世界を含めた具体的な姿を理解する。

学習の到達目標

子どもは自分が置かれている環境の中で、それと相互作用しながら学ぶものである。戦後、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、教育現場において自然体験や生活体験の不足が課題として取り上げられるようになったことを鑑み時代背景の理解を深めると同時に、体験活動の意義を知り、児童の発達にふさわしい生活のあり方を考察する。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
授業の目的および内容説明、成績評価について説明をする。
- 第2回 生活科新設の経緯と社会的背景
子どもを取り巻く昨今の社会情勢について知る。
- 第3回 体験活動の意義
体験活動の重要性、事例研究「フィールドビンゴゲーム」から、体験活動の意義を探る。
- 第4回 子どもの遊びの意義
子どもにとって「遊ぶ」とは何かを理解する。
- 第5回 昔の遊びの価値
伝承遊びからみる遊びの意義を理解する。
- 第6回 身近な物から遊びを創り出す。
身近な道具や廃材を使って遊びを創り、そこから子どもと物的環境とのかかわりについて考察する。
- 第7回 身近な科学遊び
好奇心や探究心を育む遊びについて考察する。
- 第8回 自然とのかかわり
自然物を取り入れた遊びを考える。
- 第9回 栽培活動における命の教育
四季の植物を知り、栽培方法への理解を深める。
- 第10回 飼育活動における命の教育
学校の現場において育てやすい小動物と飼育方法への理解を深める。
- 第11回 子どもと学校生活
集団における子どもの発達や集団生活が果たす役割について考察する。
- 第12回 子どもの発達と家庭の役割
家庭における自分の役割と自分の生活を振り返る活動の意義を探る。
- 第13回 子どもと地域の役割
地域の人々や様々な場所とかわる活動の意義を探る。
- 第14回 自分の成長を振り返る
子どもがこれからの成長への願いをもって意欲的に生活することを考える。
- 第15回 生活の理解のまとめと振り返り
授業の総括として、これまで身につけた知識をもとにし、子どものより良い発達を支える生活環境について考察する。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(40%)さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。(60%)

授業時間外の課題

予習では、授業の事前にテキストを読んで用語や語句の理解を深め、要約しておくこと。
復習では、授業後の振り返りレポートをまとめて提出すること。

メッセージ

講義時間内にお伝えします。

教材・教科書

テキスト：岡野聡子・筒井愛知編著（2013）「子どもの理解と環境づくり～領域「環境」と「生活科」との教育内容の接続を考える～」ふくろう出版、岡野聡子著（2013）「子どもと環境～身近な環境とのかかわりを深めるために～」(株)ERPブックレット

参考書

参考書：授業中に指示する